財務省主催 国際シンポジウム

戦後80年に考える これからの 国際協調のあり方

地政学リスクが広がる中で、グローバル・サウスも含めて国際協調をどう深化させ、脆弱国の状況に対応するのか。分断に向かう現下の国際情勢下で、自由な貿易と資本市場の今後の在り方をどう考えるのか。
今回のシンポジウムには、シンクタンクのトップや世界銀行、経済協力開発機構(OECD)、国際連合の元幹部、南米やアジアなどのグローバル・サウスの専門家が参加し、この難問に取り組みます。

日時 2025年3月6日(木) 10:00～16:50
言語：英語（日英同時通訳あり）

場所 ホテルニューオータニ
ザ・メイン 宴会場階「芙蓉の間」
（東京都千代田区紀尾井町4-1）

●必ず事前のお申込みが必要です。●対面参加のみとなります。

参加費 無料

Time Table

10:00-10:10	開会挨拶　三村淳(財務官)
10:10-10:30	基調講演:「不確実性が高まる世界における国際機関の役割と日本への期待」 ナイジェル・クラーク(IMF副専務理事)
10:35-11:50	セッション1:「国内情勢の不安定化と世界で拡大する政府債務」 司会者:ロヒントン・メドーラ(カナダ国際ガバナンス・イノベーションセンター元会長)
14:00-15:15	セッション2:「地政学的な緊張や保護主義が進む中での今後の国際協調のあり方」 司会者:ポール・サムスン(カナダ国際ガバナンス・イノベーションセンター会長)
15:30-16:40	セッション3:「世界経済が様々な危機に直面する中で国際機関に求められる役割」 司会者:サンジョイ・ジョッシ(インド・オブザーバー研究財団理事長)
16:40-16:50	閉会挨拶

お問い合せ
国際シンポジウム 2025 参加登録事務局
（株式会社コンベンションリンケージ内）
〒102-0075 東京都千代田区三番町 2
TEL：03-3263-8698（平日 10:00-17:00）
E-mail：mof25reg@secretariat.ne.jp

お申込みはこちら ▶▶ 登録締切：2月28日(金)
二次元コードまたは、WEBサイトからお願いします。
https://www.international-symposium2025.net/
財務省 国際シンポジウム 2025

基調講演・セッション紹介

基調講演

不確実性が高まる世界における国際機関の役割と日本への期待

ナイジェル・クラーク

IMF副専務理事

セッション1

国内情勢の不安定と世界で拡大する政府債務

先進国を含め、世界各国において国内社会の分断が広がり、社会が不安定化している。こうした潮流を受け、経済政策に関しては、世界で「大きな政府」への流れが止まらず、債務膨張への世界の懸念が高まっている。
各国が直面している国内社会の分断・不安定化の背景にある要因は何か。国内社会の安定に向けて、真に求められている改革や政策対応は何か。

財政悪化と政府の債務残高の増大に伴うリスクはどの程度深刻な状況なのか、世界で進む債務拡大リスクはどのように管理できるかについて議論を行う。

三村淳

日本・財務官

ロヒントン・メドーラ

カナダ国際ガバナンス・イノベーションセンター元会長

イシャック・ディワン

レバノン・フランス開発金ラボ(FDL)研究ディレクター

モーリス・オブストフェルド

米・ピーターソン国際経済研究所(PIIE)シニアフェロー

アティフ・ミアン

米・プリンストン大学経済学、公共政策教授、ジュリス・ラビノウィッツ公共政策・財政センター所長

セッション2

地政学的な緊張や保護主義が進む中での今後の国際協調のあり方

保護主義の台頭や地政学的な緊張により、国際協調はますます困難なものとなっている。新型コロナウイルス拡大やロシアによるウクライナ侵略を受け、経済をその効率性のみならず、強靭性の観点から捉えることも重要となった一方で、保護主義的・自国中心的な政策が更なる国家間関係の緊張や国際経済の分断化につながり、世界経済の効率性が損なわれるおそれもある。

現下の国際情勢において、国際協調をどのように推進していくべきか。また、経済のブロック化が先鋭化し大戦を招いた第二次世界大戦終結から80年、そこから学ぶべき教訓は何か。

ポール・サムスン

カナダ国際ガバナンス・イノベーションセンター会長

シャノン・K・オニール

米外交問題評議会副会長

土郎・アームストロング

豪・オーストラリア国立大学豪日研究センター所長

クレオン・バトラー

英・チャタムハウスグローバル経済・金融プログラムディレクター

マリ・エルカ・パンゲストゥ

前世界銀行専務理事、元インドネシア貿易大臣

セッション3

世界経済が様々な危機に直面する中で国際機関に求められる役割

戦後の自由な世界の経済システムを支えたIMF、世界銀行、WTOは、これまでそれぞれの役割の再定義や改革を続けながら、自由貿易と国際金融システムを守ってきた。しかし、グローバルサウスの国々などには既存の経済秩序に不満が広がり、西側と新興国との競争も強まっている。現行の国際金融システムや国際金融機関が国際協調を促し、より包摂的な成長を実現するためには、どのような再設計が求められているのか。

世界経済の安定と持続的な発展を実現し、同時に各国が協力して国際問題に取り組むため、国際金融機関に求められる役割を考える。

サンジョイ・ジョッシ

インド
インド・オブザーバー研究財団理事長

ジョモ・クワメ・スンダラム

マレーシア
元国連経済開発担当事務次長補

マルティン・ミューライゼン

独・アトランティック・カウンシル・ノンレジデント・シニアフェロー

ジョアキン・レビ

元世界銀行専務理事兼世界銀行グループ最高財務責任者(CFO)

パスカル・サンタマン

仏・元OECD租税政策・税務行政センター(CTPA)局長、ローザンヌ大学教授